



おうち英語における3つの能～本能・知能・才能～

目次

■おうち英語における3つの能

- ・おうち英語における3つの能<本能>
- ・おうち英語における3つの能<知能>
- ・おうち英語における3つの能<才能>

■人事を尽くして天命を待つ

- ・環境も大事
- ・隔世遺伝もあるかも?!

おうち英語における3つの能

前回の note 投稿で

おうち英語というのは人間が

本来生まれながらにして持っている

言語習得本能を利用して行うものなので

やるべきことを実践したら

心穏やかにしていて大丈夫なんだろう、

という内容を書きました。

しかし、私も経験者として思い当たる節がありますが、

おうち英語、子育てをしていると、

ドンドン×100 欲深くなっていき

子どもへの要求レベルがドンドン上がってしまうことも💧

「もっともっともっと!」と

果てなく子どもにたくさんを求め始めてしまい

親も子どもも疲弊してしまったり・・・

というケースもあるのかな・・・と。

これは実はおうち英語だけではなく

子育て全般においてそうだと思っていますが

3つの能を混同してしまっているところに

原因があったりするのでは?と思いました。

教育業界関係者から

「それ言っちゃう?!」と思われて
口封じの刺客が放たれても嫌なので
閉じられたところだけでつぶやきます(笑)

おうち英語における3つの能<本能>

わが子のおうち英語経験と
オンラインスクール Englishbuds の運営経験から
自信をもって断言できますが、
乳幼児期に十分なインプット環境を整え
適切なアウトプットの促し方をすれば
「子どもが英語を話す」ということは
夢物語ではなく可能なことです。

もちろんその過程にいろいろな困難があったり
注意すべきこともありますので
楽勝とまでは言いませんが
神童と呼ばれるような選ばれた子しか
成しえないことではないと思っています。

それは、言語を習得するという力が
本能的に人間にプログラミングされているからであり
その力を上手く発動させれば
脳がそのように働いてくれるからだと思います。

ということで、
おうち英語初期は
人間が生まれながらに持つ<本能>を信じ
心安らかにインプットに邁進し、
アウトプットを引き出すことに専念すべきです ✨

問題は本能だけでカバーできないところなのかな・・・と。

それは個体差が大きく出る<知能>と<才能>です。。

おうち英語における3つの能<知能>

英語に限らず、言語というものはツールです。
言語を使ってコミュニケーションをはかったり、
学問を探究したりしていきます。

コミュニケーションの手段としての
単なるしゃべり言葉で良ければ
先ほどお話した【本能】で身に着けられるレベルで
なんとかなるのだと思います。

しかし、日本語でもそうですが、
年齢が上がっていくと話す内容に対しての
【教養】が問われるようになり
英語で何を読むのか、何を学ぶのか、何を語るのか
の方が大切になってきます。

そうなってくると純粋な言語としての運用能力
だけの問題ではなくなってきて
【知能】というもう一つの<能>が
バーンと現実を見せてきます…。

中高生くらいになると
娯楽レベルで英語を楽しむことはできても
政治や経済、環境などに全く興味を示してくれず
「なんて向上心がない子なのだ。
世の中に貢献しようという思いも能力もないのか」
と悲しかったです。。

子どもの能力の限界を見ることは
鏡をのぞいて「わ!私カエルやった!」と
我に返るような悲しい瞬間でしたね…(-_-)

カエルの子はカエル…

決して子どもを責められない…。
私も知的な英語が話せるレベルに未だ到達できておりません。。

おうち英語における3つの能<才能>

次々と現実を突きつけていきます。。。

3つ目の能、それは【才能】

みんな違って みんないい、と言いますが、
人間みんな個性豊かな存在なんですよ。

様々な個性が満ち溢れているから
この世は色鮮やかで楽しんだと思います。

みんな画一的だったらこの世は退屈でしょう。

オールマイティーになんでもできる人も稀にいますが
たいていは人の才能は凸凹で
「この分野は得意だけどあの分野は全然ダメ」
みたいな話はよく聞く話です。

個性、言い換えればそれは天賦の才かもしれません。

どの才能が与えられているか、
それはその人その人、その子その子で違います。

英語においてもやはり<言語的な才能>を持っている人、
というのは実在します。
言語に柔軟な人、いますよね。

わが家の娘はどちらかと言うと、
言語的な才能はあるタイプで
別に何か特別なことをやったわけではないのに
日本語も英語も自分で読めるようになったのが
平均よりもかなり早かったです。

片や息子は、
日本語も英語も読み書きに不得手が見られ
その苦手を克服しようと
結構親である私もフォローしたり、本人も努力してきましたが

人並みよりちょっと下のレベルに持っていくのがやっとな感じですよ。

生まれ持った【才能】には敵わないところがあるんじゃないかと思わざるを得ません。

スポーツでも小さいころから専門家に技術を習い練習を積み重ねてきても、必ずその道のプロになれるわけではありませんよね。

一番強いのはその分野の【才能】に恵まれた人がそれ相応の努力をしていくことなのかと・・・。

【才能】だけあっても努力や練習を嫌い、大成しなかったスポーツ選手もたくさんいますよね・・・。

話を英語に戻します！

英語には<言語的才能>だけでなく、<対人スキルが高い人>というも有利に働くのではないかと考えています。言語はコミュニケーションのツールですからね。

特にアウトプットを引き出していく時に社交的な子というのは圧倒的に有利ですね。

どんなに言語的才能が高い人でも人と接することが苦手だと将来小説家や文筆家として成功する可能性はあってもアウトプットが評価対象になる子ども時代は「英語があまりできない」とジャッジされてしまうかも・・・。

わが家の子どもたちで言うならば二人とも内弁慶で内向的なタイプで誰にでも"Hi!"と声掛けていけるタイプではなかったためアウトプットの面ではかなりヤキモキしましたね・・・。まあ、それは今も・・・ですね。雀百まで踊り忘れず、と言いますが、

この【才能】というものは
ある日突然開花することは期待できず、
やはり生まれ持った気質・性質として
付き合っていくことになるのかなあ・・・
と思います。。。

人事を尽くして天命を待つ

環境も大事

おうち英語、子育てをしていく上で
受け入れたくない現実かもしれませんが、
【知能】【才能】というファクターは
どうしても影響すると思っています。

しかし、じゃあ、

【知能】【才能】を理由にすべてを最初から諦めたり
上手く行かないことへの言い訳にしているのか?!

というと、そんなことは一ミリも思っていない。

いくら【知能】【才能】に恵まれていたとしても
それらは勝手に開花してくるわけではなく
環境が大きく影響すると言われています。

おうち英語だって
日本においてはおうち英語という環境を
人工的に作り出さなければ
母国語方式で身に付けて行くことはできませんから
環境はととてもとても大切です。

逸話を持ち出すまでの話ではないかもしれませんが
孟母三遷の教えという有名な逸話もありますよね。

中国で有名な儒学者の孟子が小さい頃、
教育熱心な孟子のお母さん(孟母)は
住んでいた場所がお墓の近くだった時に
孟子がお葬式ごっこばかりをして遊んでいるのを見て、
「ここは子育てできる環境ではない」ということで、
すぐに引っ越しを決めたと言います。

引っ越し先というのが、今度は市場の近くで
今度は孟子が商売の真似事をして遊ぶようになったのを見て、
お母さんは再び引っ越しを決意。

次は、学校の近くに住むようになります。
その環境のおかげで、孟子は必死に勉強するようになった
というエピソードが「孟母三遷」という言葉ですが
人は環境に大きく影響されますよね。

親である自分の知能・才能を見限って
「どうせ私はバカで大した才能もないから
子どもも同じだろう」と早々と決めつけしまうのは
環境という因子を無視することになります。

人の能力を開花させるためには
【知能】【才能】だけでもダメですし
【環境】だけでもダメで
その両方が上手く合致する必要があるのかなと。

親としてできることは【環境】を整えることだけで
そこはできる範囲で全力を尽くすべきだとは思いますが
【環境】を与えたら
・東大理Ⅲに合格しちゃう、とか
・バイリンガルになっちゃう、みたいには
思わない方がいいんじゃないかと私は思ってきました。

わが家は通塾の時間や一斉授業スタイルが嫌で
塾には通わせませんでした。

前にブログで少し塾に行っていない
ということを書いたところ
意外に反響があったのでなぜ塾に行かなかったのか
せっかくなのでもう少しここで書いておくと、
「塾に行かなくても勉強ができたよ💎」
という意味では決してなくて
家で問題集を使って反復するという以上の
環境を与えたところで
【知能】【才能】が大きく花開く可能性を
感じなかったから・・・と言えます。。

言葉にするのは難しいですが
すでに子どもなりに一生懸命やっているとったんです。

サボったり、基礎ができていないなら、
塾という環境を与えることで
伸ばせる部分もあったかなと思うのですが
別にサボっている様子もなければ
基礎学力が足りていない感じでもなく。。

そうなってくると
【知能】【才能】が影響していると思うので
どうにもならないところに投資しても仕方がないじゃないか
と割り切ってしまう(^^;

中学校レベルでは
勉強においてそれほど【知能】【才能】の壁を
強く感じることはありませんでしたが
高校に行くと「同じ人間か?!」と言いたくなるくらい
脳みそが進化しまくった同級生たちがいるので
その差を認めざるを得なくなります。。

子どもたち自身も鏡に自分を映し
「私たちカエルの子!」と実感するように・・・。

子どもたちの進路希望も

大学名を取りに行きたいというよりも

「この分野の方面に進みたい」という思いが強かったので
そこに進めるだけの学力を付けられる環境を整えることに
専念したという感じですね。

隔世遺伝もあるかも?!

【知能】【才能】は遺伝要素が強いように思います。

親子というのは容姿が似るだけでなく、

やっぱりIQ だとか得意なことというのも似る傾向がありますよね。

しかし、遺伝というのは

(父親+母親)÷2では決してなく

「あれ、これは誰に似たんだい?」ということもあつたりします。

わが子で言うなら

出来の悪い息子ですが、なぜか彼はスポーツだけは

誰に教えてもらったわけではないのに小さい頃から万能です。

父親は普通にスポーツができますが

万能と言えるほどのレベルではなく。

母親の私に至っては

高校の体育の時、幅跳びがあまりに飛べなくて

体育の先生に

「お前は飛んでない!

普通に歩いてきて跨いだ方が距離が出るわ!」

と言われたくらいの運動音痴です。。。

ちなみに娘も私に似て鈍クサイです。。。

どうして息子だけ運動ができるのか謎ですが

これが才能ってヤツなんでしょう。

先祖の中に

きっと息子みたいにチョコカチョコカした人がいたんでしょう。。。

こんな感じで隔世遺伝というオプションもあったりするので
自分と配偶者だけを見て
「ウチの子はアカン!」と早々に見切ることもできないわけです。

子どもって結局どう育つか予測不可能なんですよ。

だから楽しいんでしょうけれども。

ここまで20年
おうち英語と子育てをやってきて思うことは
期待し過ぎてもダメ、期待しなさ過ぎてもダメ、
ということですね。

誰かの子育て論や教育論を完コピしても
絶対に同じようには育たないと思います。

そしてそれは
子どもや親の努力が足りなかったとか
課金が足りなかったとか
そういうことが責められるべきことではなく
様々な要因が複雑に絡み合い
そうなるべくようになった
と考えるしかないのかなあ・・・と。

人生に if story はないと言いますが
子育てにも if story はないんじゃないか
と私は思っております。

今、自分が整えられる環境を最大限に整えたら
後は子どもの個性に委ねるしかないんじゃないかと。

やるだけやったら後は天に任せるというか。

おうち英語に関しても

最後の最後はそこに落ち着くんだと思ってます。

おうち英語という環境を与えなければ

それに付随した【知能】【才能】も開花していかない。

まずはおうち英語という環境を子どもたちに与えた

私たちを褒めてもいいと思う!!!

孟母!

どんな花が咲くかは

与えられた種を撒いてみるしかないのですよ。

あまり言語的な才能に恵まれなかったわが家の息子ですが

高校生になり大学入試にはなんとか通用しそうな英語力が

いつの間にか身に付いていたという花が咲いています。

そんなゴージャスな花でも珍しい花でもないかもしれませんが

それなりにお世話して咲かせたお花なので

私としては満足しております。

皆さんが育てておられるお花はどんなお花が咲くでしょう。

そればかりは神のみぞ知る!?

人事を尽くして天命を待ちましょう♪